

令和5年度の学校評価

<p>前年度の 重点目標</p>	<p>(1) スクールミッション及びスクール・ポリシーを基軸に全ての教育活動への反映 (2) ビジネス社会を意識した規範意識の醸成と基本的生活習慣の確立 (3) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けての授業改善と評価の確立 (4) 一人一台タブレットを中心としたICT教育のさらなる推進 (5) 全日制単位制キャリアビジネス科元年における礎づくりと継続的な検討 (6) 旧中川商業生徒と令和5年度入学生との共存と融合 (7) 定時退校日の有効活用と平素業務の効率化に向けた業務改善</p>		
<p>項目 (担当)</p>	<p>重点目標</p>	<p>具体的方策</p>	<p>評価結果と課題</p>
<p>総務部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・儀式や管轄業務について計画的に企画・立案する。安全かつ円滑に遂行できるようにする。 ・PTA役員・委員との連携を図り、主体的なPTA活動になるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各組織と連絡・調整を図り、共通認識のもと、儀式や管轄業務の遂行が円滑に運営できるようにする。 ・PTA役員、委員との連携をさらに図る。PTA役員・委員の活動がしやすいようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各分掌と学年と事前確認をし、連携を図りながら、行事を進めることができた。 ・PTA役員との連携を密にして、円滑にPTA活動を進めることができた。来年度も特色のあるPTA活動を進めていきたい。
<p>教務部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中川青和高校での円滑なカリキュラムの導入と課題改善 ・スクールエンジンの運用方法の確立 ・観点別評価の実施と評価方法の確立 ・主体的、対話的で深い学びを取り入れた授業改善と評価改善 ・生徒の読書活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・2年次以降の教育課程に関する事項を準備する。 ・スクールエンジンによる成績処理、指導要録の作成、調査書の作成方法を確立させる。 ・観点別評価用の成績処理関係の書式の作成と周知・改善。 ・授業公開週間の活用 ・図書委員会(生徒)による図書館だよりの定期的発行を行い内容の充実をはかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程委員会を開催し、計画的に2年次以降の準備を進めることができた。3年次の内容は多くの教科に関係する内容が多いため定期的に教育課程委員会が必要となる。 ・マニュアルを作成し、入力者を多くの場面で補助をすることができた。 ・観点別評価では教科主任会を通じて、各教科の特性を考慮しながら進めることができた。 ・進めることができたが、生徒間の差をより配慮しながら進める必要があった。 ・生徒が委員会活動の一環として図書館だよりの一部だけでも主体的に作成できるように働きかけることができた。
<p>生徒指導部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の確立 ・令和5年度入学生における生徒指導規定全般の確認 ・委員会活動の活性化 ・支援が必要と思われる生徒への他分掌と協力した援助・指導 ・外国にルーツを持つ生徒に対する異文化理解も含めた指導体制の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・常習的な遅刻者に対する効果的な指導法の検討をする。 ・令和5年度入学生における生徒指導規定全般の問題点の洗い出し ・今年度より新たに再編した「生活委員会」の活動の活性化を図る。 ・学年、相談部、保健部と情報を共有し、連携した指導の実施 ・関係部署と情報を共有するとともに、個別のヒアリング等を実施し、相互理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・画一的な遅刻に対する指導ではなく、個に応じた面談的な指導や相談部と連携した指導を実施し多少の効果はあった。 ・全般的には特に大きな問題点はないが、服装規定について守れない生徒も若干数見られた。 ・交通安全指導や地域と連携した防犯キャンペーンなどに参加できたが、校内的に活発な活動が困難な状況であった。 ・各学年会により生徒状況の情報を共有し、指導にあたることができた。特に、児相案件や精神的に不安定な生徒に対する指導に関しては、相談部・保健部とも情報を共有し、連携を取ることができた。 ・外国にルーツを持つ生徒が、宗教・文化的な理由により、校則に一致しない部分がある場合の申告が今年度もなかったが、引き続き継続課題としていきたい。
<p>進路指導部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒個々の進路実現に向けた進路指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路選択の充実 ・基礎学力の向上 ・インターンシップの活用 ・コミュニケーション能力・マナーの向上 ・他分掌との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路希望は多岐に渡ってきているが、学年団、他分掌と協力連携し生徒の希望に添える進路指導ができたと思う。 ・朝学習の時間やハローワークのガイダンスを利用し、基礎学力の充実、コミュニケーション能力の向上を図ることができたが、今後は今以上、生徒に定着できる方法を考えたい。 ・令和7年度(単位制の卒業生)に向けての進路指導の方法についてより良くするのが課題であると考えている。

項目 (担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
保健美化部	<ul style="list-style-type: none"> ・心身ともに健康な生徒の育成 ・緊急時に備える体制の確立 ・美化意識の向上及び清掃活動の充実とゴミの減量化 ・感染症予防の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会を随時開催し、各クラスでの問題点や改善点などの情報交換を充実させる。 ・救急法講習会を充実させ、緊急時に備える。 ・環境美化意識が高まるような方策を検討する。特に衛生設備を重点に環境整備や美化に努める。 ・生徒、教員一人一人が自発的に感染症予防に取り組めるように働きかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健委員、美化委員による自発的な活動を促す。 ・必要に応じて、相談部など他分掌及び学年との連携を図りながら進めていく。 ・教職員への情報提供を適時行う。 ・教員向け救急法講習会を早い時期に計画する。 ・トイレの正しい利用方法の普及・徹底と清掃活動の充実に努める。 ・校外から持ち込んだゴミやプリント類は持ち帰るように働きかける。
生徒会	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が充実感や達成感を得るような生徒会行事の実施 ・部活動の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事において生徒会執行部が中心となり、生徒自身が学校行事の運営にあたるよう、各種委員会を中心に組織を構成する。また、必要に応じてICT機器を活用し、各行事の分散開催を行う。 ・部活動を改編、精選し、より生徒の積極的参加を促し活性化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予定していたすべての行事をコロナ前と同様に実施することができた。学校祭については、ブロック制など実施方法について検討する。 ・文化部3部を統合・合併し新規部活動を設立する。
相談部	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いた学校生活が送れるように、必要な支援や精神的サポートを行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・迅速で丁寧な対応を目指す。 ・心理検査を実施し、思考特性や集団特性の把握をする。 ・年2回程度精神健康調査を行うことで、各クラスの状況を把握といじめ等の早期発見をする。 ・学校内外の連携をスムーズに行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権や個人情報保護に留意しつつ、集団守秘義務による情報共有を行った。 ・本人、保護者の要望していることを適切に把握し、必要な対応やフィードバックを行うことができた。 ・精神健康調査を行うことにより、生徒状況の早期発見できた。 ・SC、SSWと連携することにより、外部機関とも連携が取れ、チームで行動することができた。
教育情報部	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒用タブレットの適切な利用促進 ・ICT活用の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールブックを定着させ、積極的にタブレットの利用を行う。 ・教室等の環境整備を実施する。 ・現職研修を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任および授業担当者より、生徒へタブレットの適切な利用方法を呼び掛けた。 ・教室等の環境整備を実施した。 ・職員向け研修の実施およびICT支援員の活用により、ICT活用の利用促進に努めた。
1年生	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな人間性の育成 ・基本的な生活習慣の確立 ・基礎学力の定着 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活をとおして、自立した大人として必要な人間性を高める。 ・衣食住の生活リズムを整え、時間や約束を守らせる。 ・朝学習や授業をとおして高校生として必要な基礎学力の定着をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者への連絡をこまめにし、協力体制を築く。 ・生徒理解と状況把握に努め、こまめに面談を行う。 ・各分掌、教科と連携して生徒に必要な支援を把握する。保護者の理解を得るよう連携を保つ。 ・学年の教員との情報共有を徹底し、即時に対応できる体制を整える。
2年生	<ul style="list-style-type: none"> ・人間力を高める（我慢ができる人間） ・約束を守らせる ・進路実現を意識させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間を掛けじっくり考えさせる。 ・時間（遅刻、欠席、提出物）を意識させる。 ・朝学習、授業を通じて、基礎学力の定着。 ・長期休業を利用して、オープンキャンパスに参加させる。 ・職業理解。 	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行をきっかけに、集団生活におけるマナー指導はできた。しかし、個々では友人関係のトラブルが多く見受けられ、引き続き我慢ができる人間育成を進めていきたい。進めていきたい。進めていきたい。 ・進路を意識した取組を進めることができた。

項目 (担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
3年生	<ul style="list-style-type: none"> ・進路目標の実現 ・社会に通じる人間力の育成 ・基礎学力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導をとおして自己理解を深め、進路目標の実現に向けて粘り強く最後まで努力させる。 ・学校内外の授業や活動をとおして社会に求められる人間力を育成する。 ・朝学習や授業をとおして社会人として必要な基礎学力を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に自分自身の進路を真剣に考えさせ、必要な支援を継続的にすることができた。 ・保護者等関係者と密に連絡をし、協力体制がある中で指導することができた ・進路指導部と連携し、生徒に必要な支援をすることができた。 ・課題研究での校外授業など、生徒の活躍の場を広げることができた。 ・スタディサプリの「よのなか科」などを活用し、社会人として必要なものに触れる機会を作ることができた。
	総合評価		<ul style="list-style-type: none"> ・1年次生が全日制単位制の学年としてスタートし、次年度以降の体制づくりなど準備を進めた。今後も教育課程など進める上で課題が出てくるのが想定されるため、その都度対処していきたい。 ・1年次生より服装としてスーツを導入した。校内では2・3年生の制服と混在し、スーツや制服の着こなしについて改善点が見つかった。次年度は改善点についてしっかりと周知し、徹底した指導の必要性を感じている。 ・1年次の「キャリアプラン」では、次年度以降の科目選択、外部講演、インターンシップの実施・発表をとおして自己のキャリアを考える体制作りに努めた。 ・新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが5類に移行したことに伴い、学校行事や式典を感染拡大以前の活動に戻すことができた。活動を戻す中で、校歌の歌唱など未実施であった内容について、重点的に指導を実施した。 ・ホームページやInstagramを利用した情報発信の体制の整備ができた。 ・SC、SSWとの連携により、外部機関とも連携を取ることができ、チームで対処が可能となった。 ・定時退校日を含め、時間を意識して業務を進めるようにしたが、週休日に大会が連続する部活動の顧問や単位制への対応を進める一部の分掌で在校時間が多くなりがちとなった。
学校関係者評価を実施した主な評価項目			<ol style="list-style-type: none"> (1) 教育活動全体をとおして、基本的な生活習慣の確立・基礎学力向上に向けた取組を実施することができたか。 (2) 外部連携や地域活動をとおして、地域に信頼され必要とされる学校づくりを進めることができたか。 (3) 本校カールポリーを基に教科・科目の視点から魅力ある授業実践ができるよう取り組めたか。 (4) 人権教育並びに情報モラル・いじめ防止等に関する具体的な取組について確実に実行することができたか。 (5) 定時退校日の有効活用を含め、時間を意識して業務を進める意識改革を推進できたか。